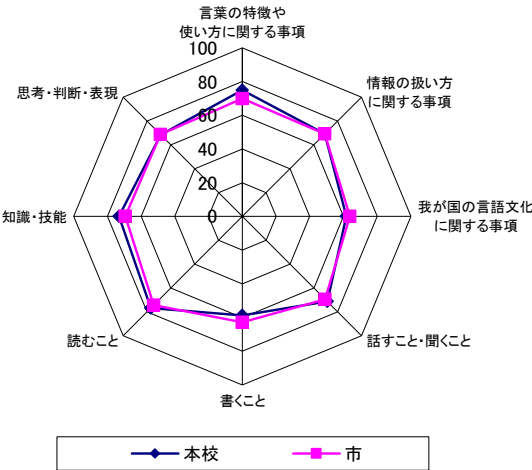


宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.9	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	69.2	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	61.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	71.3	69.5	71.5
	書くこと	58.7	62.8	67.1
	読むこと	76.8	74.4	73.7
観点別	知識・技能	73.2	69.4	71.9
	思考・判断・表現	68.5	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

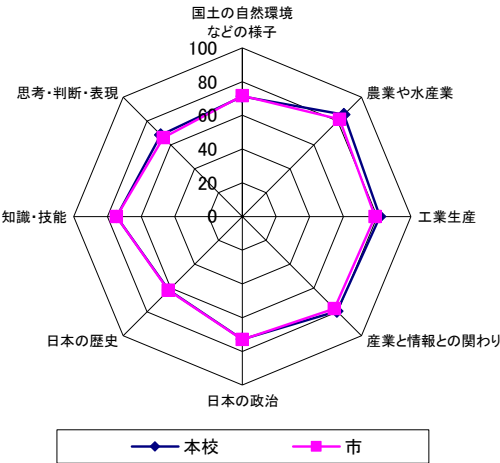
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○5, 6年の漢字の読み・書きに関する設問は、すべて市平均正答率を上回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問では、市平均正答率を5.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習の励行や練習方法の工夫などを引き続き指導する。 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の種別についての復習を行うとともに、日常生活に即した場面設定でふさわしい敬語を用いることができるようにロールプレイで学べるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問では、市平均正答率を4.1ポイント下回った。	・複数の資料からの情報の取り出しや、キーワードをおさえた文章解答の仕方などを授業を通して補うようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかを問う設問では、市平均正答率を2.1ポイント下回っている。	・漢字の学習や意味調べ等を通して、漢字や言葉に親しむ場の設定をする。
話すこと・聞くこと	○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、市平均正答率を4.9ポイント上回った。 ●意図に応じて、質問を工夫する設問では、市平均正答率を0.8ポイント下回った。	・朝の会、帰りの会や学級活動等で、話の聞き方について指導をし、大切な部分はどこかを考えながら話を聞けるようにする。 ・聞き取った内容を要約する力に課題が見られるため、日頃から自分の考えを簡潔にまとめ表現する意識を醸成する。
書くこと	○目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する設問では、市平均正答率を3.6ポイント上回った。 ●文章を書く設問すべてにおいて、市平均正答率を下回っており、文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多い。	・毎週日記を書く課題に取り組みせ、文章を書くことに慣れさせるとともに、表現力を養う。 ・行替えや句読点を打つ位置などの原稿用紙の使い方についても、再度指導する。
読むこと	○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市平均正答率を4.1ポイント上回っている。	・読む速度に個人差が大きい。繰り返し出てくるキーワードをおさえることや、問題文に使用される語句と同じ言葉を文章中から拾うなどの基本的な読みの技術が足りないので、読みの指導を日頃から行うようにする。 ・物語文の登場人物の心情を捉えやすくするために、朝の読書の時間や図書室利用の時間を利用して読書に親しめるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.2	71.6	67.5
	農業や水産業	85.4	81.5	82.1
	工業生産	81.6	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	79.4	77.2	68.2
	日本の政治	72.9	73.1	77.9
	日本の歴史	61.8	62.0	65.8
観点別	知識・技能	74.6	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

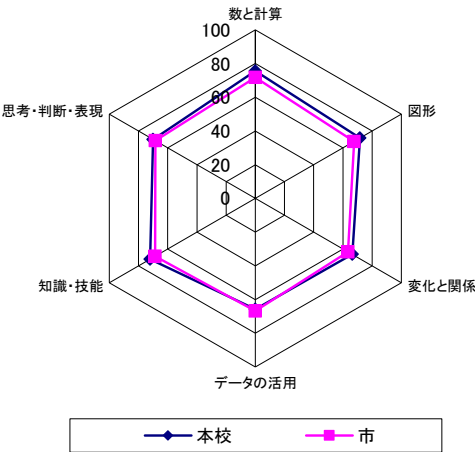
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の主な地形の名称と位置について理解しているかの設問では、市の平均正答率を3.1ポイント上回ったが、正答率は52.3%と低かった。 ●日本の周辺の海洋名について理解を問う設問では、市の平均正答率を1.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や地球儀等を用いて、日本の地名等の知識を習得するとともに、日本とつながりの深い国については、正しく国名や国旗を理解し、外国とのつながりに関心がもてるように指導していく。
農業や水産業	○日本の地産地消について、資料を読み取る設問では、87.9%の正答率で、市の平均正答率を5.4ポイント上回った。資料を読み取る力は付いているといえる。 ●カントリーエレベーターについての理解に関する設問では、市内の平均正答率を1.6ポイント上回っているが、全国正答率より1ポイント低かった。	・資料から読み取る力は身に付いている。さらに表現力を高めるために、授業の中で、資料から読み取ったことを文章にまとめたり、地図など図に表したりするなど、考えを自分なりに表現する活動を増やしていきたい。
工業生産	○日本の輸出品についての資料を読み取る設問では、市の平均正答率を4.5ポイント上回った。 ●キャリアカーと船に着目して、自動車の出荷の工夫を捉える設問では、正答率は68.2%と低く、他の設問との正答率に差があった。	・説明文や図等の資料を参照し、授業の中で適切な説明をする学習を繰り返し行っていきたい。 ・教科書に掲載されている工業統計のグラフを中心に、学習用端末を使用するなどして、児童が興味をもって学習できるような教材の工夫に励んでいく。
産業と情報との関わり	○メディアの特徴について問う設問は、92.5%という高い正答率であり、メディアへの理解や関心が高いことが分かる。	・調べ学習を行う際、インターネットを使用する上で必要となる情報リテラシーについても繰り返し指導を行っていく。
日本の政治	○基本的人権の尊重についての理解を問う設問では、86%であり、市や全国の正答率を上回った。 ●国民による政治の仕組みを判断しているかについての設問では、正答率が44.9%と市を5.1ポイント、全国を13.3ポイント下回り、課題が見られた。	・政治についての学習では、最近のニュースを話題にするなど、身近な具体例を交えながら関心を高める指導を行うようにする。
日本の歴史	○鎌倉幕府が置かれた場所の資料を読み取る設問では、市の平均正答率を4.4ポイント上回った。 ●奈良時代の資料に着目して、日本文化に影響を与えた影響を考える設問では、正答率が34.6%と全国の正答率に比べ22ポイントも下回った。	・資料集等にある多彩な資料や歴史上のエピソードを紹介したり、学習用端末を使って動画の説明を視聴したりするなど、分かりやすく、歴史自体に親しみをもてるようにする。 ・授業の終わりに、めあてに沿った一時間の学びを自分の言葉でノートにまとめることで、考えを深めていけるようにする。教科書に出てくるキーワードを文章の中に用いて、各時代における政治や文化の様子を文章に表現する指導に努める。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.6	71.8	76.2
	図形	71.7	67.7	67.8
	変化と関係	66.4	63.4	62.7
	データの活用	65.7	66.7	61.5
観点別	知識・技能	72.1	68.6	70.7
	思考・判断・表現	70.1	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

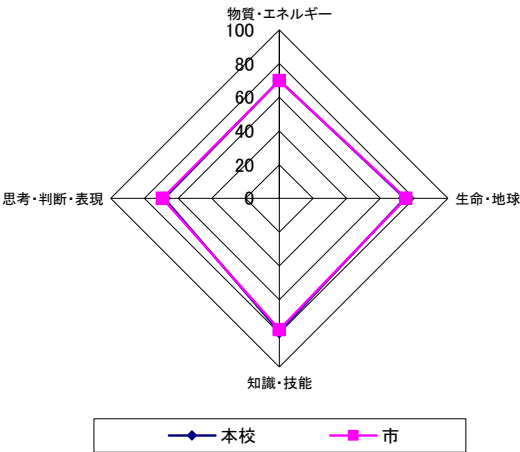
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ほとんどの設問で市の平均正答率を上回った。 ○分数同士の乗法や除法についての設問では、どちらも90%を超え、高い正答率になっている。 ●純小数同士の乗法についての設問では、市の平均正答率を1.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・家庭学習において、ドリル等を使った反復練習を積極的に行い、どの分野においても幅広く理解を深められるようにする。 ・小数の計算においては、他の領域でもでてくるため、定期的に復習を行い、定着できるようにする。
図形	○「直方体を組み合わせた体積を求めること」や「線対称な図形について対称の軸を求めること」についての設問では、市の平均正答率を7ポイントと大きく上回った。 ●「合同な三角形を作図すること」についての設問では、市の平均を下回った。 ●「面積の求め方を説明する」についての設問では、無回答が19.6%と他の設問と比べ高かった。	・6年生での「拡大図と縮図」の単元において、作図の仕方を学習する際に、それにつながる内容として「合同な図形」を復習し、作図の仕方の定着を図る。 ・それぞれの図形の性質を比較してまとめる活動を行うことで、知識をさらに定着できるようにする。 ・「円」の学習では、面積の求め方を説明する活動を取り入れ、自分の考えを式や言葉を用いて表現できるようにする。
変化と関係	○単位量当たりの大きさ・速さについての設問では、県や市の平均正答率を上回った。 ●割合についての設問では、校内の正答率は市の平均と同程度であったが、参考値を下回った。	・割合や単位量当たりの大きさ・速さは5年生の学習内容であるが、苦手意識をもつ児童が多いため復習の機会を設ける。 ・割合は、6年生での「データの活用」においても使われるため、その際に復習ができるようにする。
データの活用	○データの見方についての設問では、校内の正答率は市の平均を上回った。 ●割合のグラフについての設問では、校内の正答率は市の平均を下回った。また、「帯グラフを読み取って、説明する」という設問では、無回答が15%と高かった。	・最頻値や中央値などについて、自分たちの学級で実際にアンケートを取った結果から問題を解くなど、身近なところから考える活動を取り入れるなどして、理解を深められるようにする。 ・6年間で学習したグラフの特徴を整理したり、目的に合わせてグラフを選んだりする活動を取り入れ、グラフから適切に情報を読み取れるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.0	69.9	67.8
	生命・地球	74.5	75.1	73.7
観点別	知識・技能	79.0	77.8	78.4
	思考・判断・表現	68.3	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「リトマス紙の様子から、水溶液の液性を判定する」項目では、市正答率を6.4ポイント上回った。 ●「ふりこのきまりの実験を計画すること」では、市正答率を11.1ポイント下回っている。 ●「溶け残った食塩をすべて溶かす方法を考える」項目では、市の正答率を上回っているが、国の正答率と比べて13.2ポイント下回った。	・「ふりこのきまり」の単元については、全体的に正答率が低い ため、ふりこの等時性を復習し、対照実験の計画でどのような条件を確かめるのか整理して考えられるようにする。 ・結果をもとに考察するが、結果の妥当性も考察し、もし正しくない場合は、原因の追究と再実験を行い、正しい理解ができるようにする。
生命・地球	○「食物連鎖についての理解」に関する問題では、市の正答率を5.1ポイント、全国の正答率を6.6ポイント上回っている。 ●「植物の茎の水の通り方を理解すること」では、市の正答率を10.7ポイント下回った。 ●「植物の発芽と成長」の「予想から考えられる結果を推測する」項目では、市正答率を7.1ポイント下回った。	・「植物の発芽と成長」と「植物のつくりとはたらき」は生物単元であるが、全体的に正答率が低い。日頃から植物に親しませる等、植物の生態について理解を深められるようにする。 ・理科の学習で習得した知識を生かして、自然環境について幅広く考えられるよう学びのつながりを持たせるようにしていく。

宇都宮市立戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら考え、進んで学び続ける児童の育成	課題を提示する際には、全員が理解できるような表現にすることで見通しをもたせ、授業で何をすれば良いのかを明確にする。	アンケート結果によると、授業の理解度に関して、ほぼ市の結果と差異はないが、進んで取り組んでいるかに関しては全学年下回った。
学び合いを通して、考えを広げ深める児童の育成	伝え合う活動の充実によって児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設定し、考えを深められるようにする。	アンケート結果によると、人の話を最後まで聞いているという児童は市の結果を上回ったが、話し合いに自分から進んで参加しているという児童は学年によって差が見られた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

本校の傾向として、学習していておもしろい、楽しいと思うことや、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしいと思う児童は学年差はあるが、8～9割程度となっている。これは授業が分かるという児童の数値よりも若干下回っている。このことから、分かってはいてもそれを思考する過程が不足していたり、答えを聞いて分かっているつもりになっていたりする子が一定数いると考えられる。その一方で人と関わることは好きな児童が多いため、次年度も引き続き、自分の考えをもてる子はその根拠となるものも明示して積極的に他者と伝え合いながら考えを深められるようにするとともに、難しい子は自分が何を分かっていて何で困っているのかを自覚して、課題解決のために必要なことを仲間に聞けるような学習形態を取ることで、誰もが分かる授業を目指していく。